



白鷹町長 佐藤 誠七

インに加工されます。味は酸味が少し強いのもっと研究していかねければならないと思っております。CMはそれらの紅(あか)いものを全部並べさせてもらい、制作しました。

さらに、CMには入っておりますが、白鷹町の深山地区には登り窯がございまして、その炎も「SHIRATAKA RED」です。実は今日お持ちした今年の干支「申」の置物もそこでつくられたもので、山形市の初市で毎年大好評をいただいております。

佐藤(孝) 色で町の産物をまとめてブランド化するというのは、なかなか聞きませぬね。全国的にもかなり珍しいのではないのでしょうか。白鷹町なのに紅(あか)というのがポイントだと思いますが、紅白ということとめでたい感じがしますね(笑)。

やはり、もともと良いものがあるからこそこういったことができるのだと思いますし、佐藤町長から養蚕の話もありましたが、「本物志向」というのは本当に強まっております。

消費が二極化され、「本物で、すぐく質が高いもの」あるいは「安いけど、良いもの」のどちらかしか売れない非常に厳しい時代の中で、白鷹町には本物がたくさんあり、それをまた一つ「紅(あか)」という枠組みでまとめられるというのは素晴らしいアイデアだと思います。

佐藤(誠) ありがとうございます。我々はいくら満足しても、他からおいでになる方々にご理解をいただかなければ広がり生まれませんので、佐藤市長からありましたことを糧にしながらいろんな形で売り込みを図ってまいりたいと思います。

高まる商業への期待。

その視線はさらに広域へ

司会 今は紅花を中心にお話をお伺いしましたが、白鷹町から一番近くの都市である山形市は、中心市街地の文化、商業機能などへの期待も高まっております。多くの方が白鷹町から山形市へ買い物などに訪れているといった交流もあるようですが、その点についてはどうお考えでしょうか。

佐藤(誠) 国道348号が開通してから様相が一変したというのは、そういう身の回りの買い物動向も含めてであります。実は平成22年度の買物動向調査の段階では、買い物先の2割が山形市という結果がでており、その数字に驚きました。長井市への依存度は非常に高いものがありますが、山形市へ買い物に行かれる方がどんどん増えております。やはり、いろんなものを選べるという楽しみがプラスとなり、付加価値が高まっていることが要因ではないかと思われまます。

佐藤(孝) やはり、道路の開通で一番影響を受けたのは商業かもしれませんね。山形市へ買い物に来ていただけることについては大変ありがたいことです。逆に今では、山形市

民が仙台市に買い物に行くなど、そういう面もあるんですね。いずれにしても大事なものは、佐藤町長もおっしゃられたように選択肢が増えるということ、山形市内でもそういった選択肢をたくさんつくっていくことが必要だと思いますし、さらに今後は山形市ならではの商品、サービスといったものを売り出し、個性を伸ばしていかなければならないと思っております。そういった面では、山形市で生まれる物産だけでなく、白鷹町で生まれる物産も山形市で販売していただくなど、連携をさせていただきたいと思っております。

白鷹町ご当地キャラクター
べにたかちゃん



山形市ご当地キャラクター
はながたべにちゃん

紅花をイメージした両市町のキャラクターが対談を和やかにしてくれた。